

【様式】

令和5年度 学校マネジメントシート

学校名（ 三重県立桑名北高等学校 ）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		生徒と共に創る教育活動をととして、地域に信頼される北高
(2)	育みたい生徒像	【育成をめざす資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）】 ア 社会人として、適切に意思疎通を図る力と良い習慣を身に付けた北高生 イ 主体的に学び続ける姿勢と力を養い、地域や社会に貢献できる北高生 ウ 以下に示す「7つの力」を身に付けた北高生 ①聴く力 ②話す力 ③書く力 ④読み取る力 ⑤考える力 ⑥前に踏み出す力 ⑦協働する力
	ありたい教職員像	【入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）】 ア 規範意識や基本的生活習慣が身についている生徒 イ 大学進学など、明確な進路意識を持って学業に取り組める生徒 ウ 部活動や生徒会活動またはボランティア活動等に積極的に取り組める生徒
		① 「主体的・対話的で深い学び」を心がけ、授業改善に熱心に取り組む教職員 ② 夢や希望する進路が保障できるよう、様々なデータの分析結果を共有し、「キャリア教育」に取り組む教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		① 生徒 「主体的・対話的で深い学び」に繋がる授業と、「朝の学習の時間」等の取組により、学力が身についていることを実感し、充実した高校生活を送ることができる。 ② 保護者（各家庭、PTA） 安全・安心に高校生活を送ることができるとともに、希望する進路が実現できるよう、学習活動やキャリア教育が充実している。	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	① 保護者 ○ 安全・安心な学校 ○ 学力向上・進路保障が実現できる学校		① 保護者 ○ 教育活動への参画、家庭教育の充実 ○ 親子の豊かなコミュニケーション
	② 地域住民（自治会） ○ 地域の青少年の模範となる生徒 ○ ボランティア活動、防災等での地域連携		② 地域住民（自治会） ○ 学校教育活動への支援と理解
	③ 中学校 ○ 学力・体力の向上、部活動の充実 ○ 進路の保障 ○ 多様な生徒への対応		③ 中学校 ○ 緊密な中高の連携と相互理解 ○ 本校の特色や取組の中学生への紹介
	④ 事業所、NPO ○ マナー、コミュニケーション力の育成 ○ 基礎学力の定着 ○ 忍耐力の育成		④ 事業所、NPO ○ キャリア教育充実のための連携強化（例：インターンシップ） ○ 求人数の増加

(3) 前年度の学校関係者評価など	【育成をめざす資質・能力】 本校の「宝物」といってもよい「7つの力」について、アンケート結果を踏まえると、抽象度が高く、社会人となった時に特に必要とされる「⑥前に踏み出す力」「⑦協働する力」を3年間の見通しを立てて、系統的に身につけていけるような工夫が必要と考えられる。 【資格の取得】 基礎学力や学習意欲の向上等には、資格の取得が有効な手段の一つと考えられる。履歴書や調査書に記入できる取得が一つでもあった方が、受験先の印象が良くなることもあるかもしれないので、検定試験の合格や資格の取得を更に積極的にすすめてもらいたい。 【基本的生活習慣の向上】 地域の道路を通学する際の自転車の運転マナーや歩きスマホ等について、一部の生徒ではあるが、地域住民の方の関心が高い状態が続いている。引き続き、教職員が地域を巡回するなど、生徒の通学時のマナーが改善されるよう、家庭の協力も仰ぎながら、生徒への指導を継続していつてもらいたい。 【働き方改革の推進】 教職員の時間外労働時間が減少していない状況が続いている。「お金がないから何もできない」という考え方はせず、効率よく業務を遂行していくために、できることから一つずつ取り組んでももらいたい。				
(4) 現状と課題	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="352 734 767 1256"> 教育活動 </td><td data-bbox="767 734 1501 1256"> ① 【学力の定着と向上】 朝の学習の時間や基礎学力診断テストを通して、基礎学力の定着に一定の成果は出ているが、積極的なICTの活用や教科を越えた授業見学により、授業力・指導力向上に取り組むことが必要である。 ② 【キャリア教育の推進】 3年間の系統立てたキャリア教育の営みを継続するとともに就職実績のノウハウを大学進学指導にも反映させていくことが必要である。 ③ 【生活習慣の確立】 朝の登校指導や個人面談の取組等、丁寧で粘り強い生徒指導を継続できているが、より時間・期日を守ることの指導を徹底していく必要がある。 ④ 【安全・安心の学校づくり】 日々の教育活動、高校生活が充実できるよう、生徒の人権が尊重される授業の実現や生徒アンケート、自転車の安全運転指導等、安心して過ごすことができる学校づくりに引き続き取り組む。 </td></tr> <tr> <td data-bbox="352 1256 767 1756"> 学校運営等 </td><td data-bbox="767 1256 1501 1756"> ① 【円滑で戦略的な組織運営】 企画委員会において様々な情報共有と改善提案を行うほか、キャリア教育委員会でのオフサイトミーティングや主任会議等により、一層円滑で戦略的な組織運営を図る。 ② 【信頼の確保と指導力の向上】 信用失墜行為の根絶はもちろんのこと、一層の信頼の確保に取り組むとともに、生徒の思いや背景を受け止めることができるよう、授業・部活動はじめ教育活動全般で、指導力の向上を図る必要がある。 ③ 【開かれた学校づくりの推進】 学校関係者評価委員会やPTA役員会等の外部の声を学校運営の改善につなげるしくみについて引き続き継続する。 ④ 【働き方改革の実効性の向上】 令和3年度に時間外勤務時間を縮減した成果を継承し、SSSの活用や支援員との協力、校務の精選等、より一層、働き方改革を進めていく必要がある。 </td></tr> </table>	教育活動	① 【学力の定着と向上】 朝の学習の時間や基礎学力診断テストを通して、基礎学力の定着に一定の成果は出ているが、積極的なICTの活用や教科を越えた授業見学により、授業力・指導力向上に取り組むことが必要である。 ② 【キャリア教育の推進】 3年間の系統立てたキャリア教育の営みを継続するとともに就職実績のノウハウを大学進学指導にも反映させていくことが必要である。 ③ 【生活習慣の確立】 朝の登校指導や個人面談の取組等、丁寧で粘り強い生徒指導を継続できているが、より時間・期日を守ることの指導を徹底していく必要がある。 ④ 【安全・安心の学校づくり】 日々の教育活動、高校生活が充実できるよう、生徒の人権が尊重される授業の実現や生徒アンケート、自転車の安全運転指導等、安心して過ごすことができる学校づくりに引き続き取り組む。	学校運営等	① 【円滑で戦略的な組織運営】 企画委員会において様々な情報共有と改善提案を行うほか、キャリア教育委員会でのオフサイトミーティングや主任会議等により、一層円滑で戦略的な組織運営を図る。 ② 【信頼の確保と指導力の向上】 信用失墜行為の根絶はもちろんのこと、一層の信頼の確保に取り組むとともに、生徒の思いや背景を受け止めることができるよう、授業・部活動はじめ教育活動全般で、指導力の向上を図る必要がある。 ③ 【開かれた学校づくりの推進】 学校関係者評価委員会やPTA役員会等の外部の声を学校運営の改善につなげるしくみについて引き続き継続する。 ④ 【働き方改革の実効性の向上】 令和3年度に時間外勤務時間を縮減した成果を継承し、SSSの活用や支援員との協力、校務の精選等、より一層、働き方改革を進めていく必要がある。
教育活動	① 【学力の定着と向上】 朝の学習の時間や基礎学力診断テストを通して、基礎学力の定着に一定の成果は出ているが、積極的なICTの活用や教科を越えた授業見学により、授業力・指導力向上に取り組むことが必要である。 ② 【キャリア教育の推進】 3年間の系統立てたキャリア教育の営みを継続するとともに就職実績のノウハウを大学進学指導にも反映させていくことが必要である。 ③ 【生活習慣の確立】 朝の登校指導や個人面談の取組等、丁寧で粘り強い生徒指導を継続できているが、より時間・期日を守ることの指導を徹底していく必要がある。 ④ 【安全・安心の学校づくり】 日々の教育活動、高校生活が充実できるよう、生徒の人権が尊重される授業の実現や生徒アンケート、自転車の安全運転指導等、安心して過ごすことができる学校づくりに引き続き取り組む。				
学校運営等	① 【円滑で戦略的な組織運営】 企画委員会において様々な情報共有と改善提案を行うほか、キャリア教育委員会でのオフサイトミーティングや主任会議等により、一層円滑で戦略的な組織運営を図る。 ② 【信頼の確保と指導力の向上】 信用失墜行為の根絶はもちろんのこと、一層の信頼の確保に取り組むとともに、生徒の思いや背景を受け止めることができるよう、授業・部活動はじめ教育活動全般で、指導力の向上を図る必要がある。 ③ 【開かれた学校づくりの推進】 学校関係者評価委員会やPTA役員会等の外部の声を学校運営の改善につなげるしくみについて引き続き継続する。 ④ 【働き方改革の実効性の向上】 令和3年度に時間外勤務時間を縮減した成果を継承し、SSSの活用や支援員との協力、校務の精選等、より一層、働き方改革を進めていく必要がある。				

3 中長期的な重点目標

教育活動	【教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）】 ア 「自律・誠実・協働」の心を持った生徒を育む教育活動の推進 イ 生徒一人ひとりの進路実現を目指し、基礎・基本の定着を図る取組を推進 ウ 人と人とのつながりの大切さを学べるよう、自他の理解、人間関係形成能力、コミュニケーション能力の育成を目指した学習活動を推進 ① 【学力の定着と向上】 「桑北スタンダード」の「活用」による「7つの力」の育成。 ② 【キャリア教育の推進】 好調な就職実績の継続とそのノウハウの進学指導への反映。 ③ 【生活習慣の確立】 丁寧に粘り強い生徒指導の継続と家庭学習の定着。生徒の参画による活動推進。 ④ 【安全・安心の学校づくり】 安全教育の推進と新型コロナウイルス感染症予防対策、危機管理体制の強化。
学校運営等	① 【円滑で戦略的な組織運営】 必要な会議の精選と日常的な情報共有の確保、新教育課程の着実な実施。 ② 【信頼の確保と指導力の向上】 日々の研鑽や研修を通じたコンプライアンス意識の向上、指導力の向上の取組。 ③ 【開かれた学校づくりの推進】 学校教育活動の地域等への発信、学校紹介動画等での啓発。 ④ 【働き方改革の実効性の向上】 計画的な業務の進捗管理と業務の精選の徹底。

4 本年度の行動計画と評価

略称に
ついて

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。…【活標】と略します。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果などを指標にします。…【成標】と略します。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

【その他の略表記について】本校の総合的な探究の時間を「みらい」といいます。…「みらい」と略します。

(1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
重点① 学力の定着と向上	【1学年】 ①基礎学力の定着 ②学力上位層の実力伸長 【活標】 ①基礎力診断テストや実力診断テスト、朝学を通して基礎学力の定着を図る。 ②各教科において発展課題や追加課題を準備し、進度の差に対応する。 【成標】 ①基礎力診断テストの評価でD3の人数を20人以下、A評価者を3人以上、学年評価C以上。 ②学力上位層や進学希望者をピックアップし、次年度カレッジクラス希望者を40名確保。 【2学年】 ①基礎学力の定着 ②学力上位層の実力伸長	【1学年】 ①第1回 A評価者 国数英 1名 国語6名 数学3名 英語4名 D3評価者 国数英 49名 学年評価 D2 第2回 A評価者 国数英 2名 国語5名 数学4名 英語8名 D3評価者 国数英 42名 学年評価 D1 学年評価、D3評価人数、A評価人数ともに目標を下回っているが、第1回、第2回を比較すると成績を伸ばすことができた。 ②カレッジ希望者 37名(35人クラス) 定員数を充足することができた。 【2学年】 ①第1回 D3 48名 学年評価 D2+	※

	【活標】 ①基礎力診断テスト、授業、朝学を通して各コースに応じた学力の定着を目指し取り組む。 ②カレッジクラスにおいて、校外模試を推奨し、課外授業で対策授業を行い、進学に向けて必要な学力をつける。 【成標】 ①基礎力診断テストの評価で D3 の人数を 30 人以下、学年評価 C 以上。 ②基礎力診断テストの評価 A ゾーン 3 名以上、B ゾーン 10 名以上。実力テスト 3 教科 200 点以上を 3 名以上。 【3 学年】 ①基礎学力の定着 ②学力上位層の実力伸長 【活標】 ①基礎力診断テストや実力診断テスト、授業、朝学を通して基礎学力の定着を図る。朝学で継続的に一般常識ワークに取り組んでいく。 ②各教科において授業内での発展課題や追加課題を準備し、進度・意欲の差に対応する。課外授業の実施・推奨。カレッジクラスは週末課題を定期的に配信し、小論文や受験の対策をする。 【成標】 ①基礎力診断テストの評価で D3 の人数を 30 人以下、学年評価 C 以上。 ②基礎力診断テストの評価 A ゾーン 5 名以上、B ゾーン 10 名以上。 【教務総務部】 ①生徒が主体的に学び合う学習の場をつくる。 【活標】 授業毎にペアワークやグループワークなどを組み込み、「主体的・対話的で深い学び」の構築に積極的に取り組む。 【成標】 生徒アンケートで、「主体的・対話的で深い学び」に繋がっていることに対する肯定的な回答：70%以上。 ②わかる授業を実現する。 【活標】 ICTの活用やユニバーサルデザインの授業づくり等の基礎的環境整備と合理的配慮などにより、わかる授業への改善をすすめる。 【成標】 生徒アンケートで、「授業がわかる」の回答：75%以上。	第 2 回 D3 31 名 学年評価 D1+ D3 の人数と学年評価ともに目標を達成することはできなかったが、確実に目標達成には近づいている。 ②第 1 回 A ゾーン 2 名 B ゾーン 9 名 第 2 回 A ゾーン 7 名 B ゾーン 23 名 1 回目は達成に一步届かなかったが、2 回目では達成目標を大幅に上回る結果を残すことができた。 【3 学年】 ①②3 学年は 1 回のみ実施 D3 の人数と学年評価ともに達成することができなかった。 A ゾーン 0 名 B ゾーン 7 名 D3 58 名 D3 の人数は目標達成にはならなかったが、D3- の人数が 2 年次より 10 名ほど減少した。 【教務総務部】 ①生徒の実態調査アンケートより ・「あなたは、ペアワーク・グループワークに参加できていますか？」の質問に対し、「かなりそう思う」「そう思う」70.1% ⇒達成できた。 ・あなたは、ペアワーク・グループワークを通して、学力が身についたと思いますか？」の質問に対し、「かなりそう思う」「そう思う」65.7% ⇒未達成 ②同アンケートより ・「桑名北高校の先生は、わかりやすい授業のための工夫をしていると思いますか？」の質問に対し、「かなりそう思う」「そう思う」90.4% ⇒達成できた。 ・「あなたは、桑名北高校で授業を受けて『わかる！』が増えてきたと感じていますか？」の質問に対し、「かなりそう思う」「そう思う」81.9% ⇒達成できた。	
--	---	---	--

【進路指導部】 基礎力診断テストおよび実力診断テストを軸として、生徒の学力把握と伸長をはかる。 ①基礎学力の向上について組織的に取り組む。 【活標】 基礎力診断テストで各学年の平均値 D1 段階以上。 【成標】 D3 を各学年・各回ともに 20% 以下。 ②進路実現のための課外授業の充実。 【活標】 全学年に放課後課外を企画・実施。 【成標】 課外授業の参加者のべ 70 人以上。 《各教科の目標》 「桑北スタンダード」を活用した授業を行う。 【国語】 ・ 1 人 1 台端末を用いた調べ学習や意見発表等を取り入れ、多様な生徒に配慮しながらグループワーク等で主体的に思考し学び合う機会を増やす。 ・ また、漢字検定の資格取得を奨励し、学力の高い生徒には発展的な問題を勧めていく。(7つの力の「考える力」「読み取る力」「書く力」に特に注力する) 【地理歴史・公民】 ・ 生徒の考える力を育むことを目標とする。そのために、生徒が主体的に取り組む発問やワークを、全ての科目で 1 コマにつき 1 回取り入れて、教師主体の授業とならないよう授業の進め方に留意する。生徒が ICT 機器を活用して主体的に学ぶことができるような授業の組み立てを行っていく。 ・ また、発想を広げたり、相手を尊重する気持ちを育むため、お互いの考えを共有し合う機会を設けたり、グループワークやペアワークを取り入れたりして、多様な考えに触れる機会を設ける。 【数学】 ・ ペアワーク・グループワーク等の共同学習を通じて、桑北高校 7つの力を養える授業展開を行う。 ・ 週末課題や小テストなどを通じて、既習の学習内容のより深い定着を目指す。 ・ 自分で単元ごとに自分で決めた取組目標を設定し、その進捗を確認（振り返り）することで生徒の主体性を高め、学習内容の定着を図る。 ・ さらに ICT 機器を活用した授業の組み立てを行い、教員一人ひとりが研鑽を重ね、実践し、生徒が主体的に、より深い学習ができることを目指す。	【進路指導部】 ①について 1 年 3 回、2 年 3 回、3 年 1 回実施。 成績不振の生徒に対し、全職員が学習チューターとしてフォロー。 D3 率 20% 以下は、2 年 2 回で達成。※第 3 回は結果待ち ②について 全学年で課外授業を企画・実施 1 学期 3 年 64 人のべ 124 人 夏期 3 年 7 人のべ 21 人 2 学期 3 年 4 人のべ 7 人 2 年 4 人のべ 5 人 1 年 13 人 【国語】 ICT 端末を使用した調べ学習や意見発表を定着させ、主体的に学び合う機会を増やしていくことができた。手書きで自分なりの考えを文章にまとめる機会は減らさずに ICT の良さを取り入れることで「考える力」「読み取る力」「書く力」を養うことができた。漢字検定の機会を二回に変更することで長期的な計画を持ちながら検定に向かうことができた。 【地理歴史・公民】 授業プリントでは Key Question を考えるための課題設定や、生徒達が自ら調べたり、他の生徒やグループと意見を交換する展開など深い学びにつなげることができた。また、Jamboard を活用し、他の意見を視覚的にも見やすく・分かりやすくすることで、自身の意見との比較や見識を広げるよいきっかけとなった。 【数学】 ・ 各授業において、教員一方向の授業にならないよう心がけ、ペアワーク、グループワークの時間を設けることができた。 ・ 1 年生・2 年生においては週末課題を実施し、既習内容の定着をはかることができた。2・3 年生のチャレンジクラスでは小テストを活用して既習内容の定着をはかり、定期テストにつなげることができた。 ・ 単元ごとに生徒自身が目標設定	
--	---	--

	【理科】 ・可能な限り、実物の資料や ICT を使用し、生徒がイメージしやすい授業を心がける。仲間とともに課題や実験に取り組み、協力して課題を解決する力を養う。 【保健体育】 ・体育と保健の関連性を意識しながら、生涯を通して健康に生きるための知識、見方・考え方を学ばせる。 ・個々の課題に対して、ICT の使用やペア活動・グループ活動を通して、他者と関わり合いながら協力して解決する力を養う。 ・ICT を効果的に活用し、生徒の技能を高め、振り返りを充実させる。また、ICT を活用した指導と評価の一体化を図り、指導を行っていく。 【芸術】 ・ICT を活用し、授業の課題や流れを工夫することで生徒の興味を引き出し、物事を深く思考する力に繋げる。また、鑑賞の授業に力を入れ、様々な価値観の作品を学ぶ中で、豊かな感性を養う。 【英語】 ・英語を「読む・書く・聴く・話す」の4つの技能をバランスよく学習できるような授業とする。基礎的な内容を繰り返し指導し学力の定着を図るとともに、学習の仕方を身につけ主体的な学習に結びつくよう指導する。 ・また、ICT を活用し、SNS 上で使われる英語など、生きた英語にも触れさせる。 【家庭】 ・ICT を活用し、各自で調べたことを教え合う機会や意見交換の機会を持たせる。相手の話を聞く態度やわかるように伝える努力により、協働する力を育成し、知識・技術の定着につなげる。 ・また、1人1台端末を使用し、各自の進度にあった内	をすることにより授業に計画的に前向きに取り組むことができた。 ・今年度新たに Chromebook を用いての調べ学習やレポート提出などを授業内に実践した。教科内で授業見学や意見交換を行うことによりお互いの授業力向上につながった。このことを来年度以降の授業にいかしていきたい。 【理科】 プロジェクトなどを用いて実験の映像やアニメーションを見せることで、生徒とイメージを共有できた。また、グループワークや実験を行うことで、協力して課題に取り組む力を養うことができた。 【保健体育】 特に、Chromebook を用いて体育の学習を進めることができた。生徒が自身の動きを客観的に確認することができ、イメージしている動きとの擦り合わせができた。また、動きを動画に収めて提出をさせることで、評価をしやすくなった。 【芸術】 ICT の活用に関しても、積極的に取り組むことができた。 【英語】 パフォーマンステストの活用の仕方などを情報共有することで、4技能をバランスよく学習できるような授業を、教科全体として意識して計画・準備できた。ワークによる単語学習～単語テスト実施のサイクルを定期的に行い、基礎力の定着にも努めた。また、ICT の活用も試みたが、SNS 上で使われる生きた英語にはなかなか触れるまでにはいかなかった。来年度以降の検討が課題である。 【家庭】 授業の振り返り、実習内容の各自での確認など生徒に端末を使用させ、各自の進度で技術の獲得につなげることができた。さらに、時間の確保に工夫し、できていない
--	---	---

	容を繰り返し確認させること、ふり返りをさせることで技術の獲得につなげる。 【情報】 ・直面する課題や目的に適した情報手段を主体的に選ぶことができるように、様々な手段を学び、問題解決や目的達成のために情報や情報手段を適切に活用する能力を育む。 ・実習などを通して実際に体験させ、経験を積み重ねることで得られる結果を自ら評価し、改善を図る。 ・情報の発信先、伝達先には必ず人間がいることを意識して、発信先、伝達先にとって分かりやすかつ不快な思いをさせないような情報の発信・伝達ができる能力・態度を養う。 【商業】 ・簿記については、ビジネスに関する実務との関連性を認識させる。プロジェクトを活用し、授業の効率化を図る。 ・情報処理については、情報を収集・処理・分析し表現する一連の諸活動において情報を活用する能力・態度を養う。書画カメラを活用し、授業の効率化を図る。 【ヒューマン】（学校設定教科） ・コミュニケーションワーク・保育園児との継続的交流を通して、自他への理解を深め、粘り強く人と関わる力を育てる。 ・ふりかえりによる気づきの明確化と定着、学びの共有を図る。	生徒への対応が課題となった。また、調べ学習においては個々の活動をグループ、クラスへと発展させ、知識・技術の定着につなげることが課題である。 【情報】 様々な場面を想定しながら ICT の活用方法を実際に体験させることができた。コンピュータに指示することを学ぶことにより、問題解決力やコミュニケーション能力の向上にもつなげることができた。しかし、目的や場面によって主体的に手段を適切に選ぶのは難しいと思われるのが課題である。 【商業】 ・プロジェクトを使用することで板書の時間が短縮でき、効率的に授業が行えた。 ・情報を活用する能力・態度を養うことができた。書画カメラの活用で、授業の効率化を図れた。 【ヒューマン】（学校設定教科） 生徒は園児と関わるなかで、思い通りにいかないことに向かい合っていく姿があった。その過程において粘り強く人と関わる力が身についていった。	
重点② キャリア教育の推進	【1 学年】 7つの力を意識したキャリア教育 【活標】 「みらい」の授業ごとに自分に身についた力を振り返り、ふりかえりシートで積み上げていく。インターシップと「探究」を連動させ学びを深めていく。 【成標】 1 学年終了時に、7つの力に関するアンケートを実施し、各生徒が「みらい」で身についたと実感できる力を、3つ以上選択している。 【2 学年】 進路選択に合わせたキャリア教育 【活標】 「探究」の時間に自分が目指す進路に向けて自己分析ができる教材や情報を提供する。企業や上級学校の方に直接話を聞いたり、見学する機会を作る。 【成標】 自分に合った職種や仕事を知るために外部サイトを使用してデータとして残し振り返りができるようにし、たくさんの仕事の種類や中身を知る。また、希望する仕事が決めている生徒は、その仕事についての知識や理解を	【1 学年】 全体の 47% (78/165 人) が 7つの力について「得意」「伸びた」と感じる項目を 3つ以上と回答。全体の 5割程度が、中学校から比べ成長したと感じているようである。今後も生徒が成長を実感できるような「みらい」の取り組みを実践していきたい。 【2 学年】 2 年次の 3 学期には求人票が、自由に見られるサイトへ登録をした。そのサイトを利用し、求人票の見方など就職活動の方法等を学ぶ良いきっかけになった。 分野別見学会や Omie みらいのトビラ！などたくさんの企業や上級学校に訪問して見学したり、話を聞くなど、自身の進路について改めて考えられる機会を作ることができた。	※

深める。 【3 学年】 ①進路実現 ②社会との接続 【活標】 ①進路説明会、みらいセミナー、面接練習等の進路行事と連動しながら進路実現に向けた学年の気運を高めていく。特にカレッジクラスの進学対応に関して、学年団全体でサポートしていく。 ②社会との接続を意識した「みらい」での行事・各種セミナーを通して、今後のキャリアイメージを持ったうえで卒業させる。 【成標】 ①進路決定 100%。 ②今年度 3 学年 176 名全員卒業。 【生徒指導部】 ①挨拶が行き交う学校づくりを行う。 【活標】 朝の挨拶運動や校内での積極的な声かけを通して、挨拶が行き交う雰囲気をつくっていく。 【成標】 生徒アンケートで、「挨拶ができた」の回答：90%以上。 ②身だしなみ・頭髪の指導を行う。 【活標】 各学期に 2 回の「頭髪・服装指導」と日々の校門指導を基本とし、いつでも進学・就職試験を受けられる状態にする。 【成標】 頭髪服装の再指導人数が全体の 5 % 以下。 【進路指導部】 総合的な探究の時間「みらい」を計画的・効果的に企画・運営し、生徒のキャリア形成を促しつつ進路意識の向上を図る。 ①年間計画に基づく効果的なキャリア教育の推進 【活標】 中・小 PDCA サイクルを活かしたキャリア教育の実施。 【成標】 生徒アンケートによる満足度 90%以上。 昨年度卒業生の 1 年以内の早期離職率 10% 以下。 ②各学年との連携 【活標】 進路指導部の「みらい」担当と学年との打ち合わせを密にする。 【成標】 学年会議で「みらい」打ち合わせ 100%実施。 学級担任からの企画についての評価回収 100%。 ③デジタルツールの利用促進による視野拡大 【活標】 Handy 進路指導室・Google Classroom 等の一層の利用。 【成標】	【3 学年】 ① 2 月上旬時点で進路未決定者 7 名。進路決定のために現在も活動を続けており、卒業後もサポートしていく ②176 名中 173 名が卒業予定 3 名は本人希望により他校へ転学 入学時 193 名中、89%が卒業予定 【生徒指導部】 ①「挨拶ができた」の回答が 89.2% であり、目標を達成できなかった。こちらから積極的に挨拶をすることはもちろん、挨拶の意味や大切さを伝える場を設けたい。 ②各学期 2 回の「頭髪・服装指導」と校門及び昇降口での指導を実施したが、再指導人数は全体の 7.2%で目標であった 5 % 以下を達成できなかった。男子のパーマ等加工やアイロン・縮毛矯正などによる色落ちが指導対象として増えている。 【進路指導部】 ①について 年間計画を元に概ね実施。 3 年生生徒アンケートの満足度は達成。※ 1・2 年は 3 月実施。 1 年以内の早期離職は、1 2 月時点で、17.8%で未達成。 ②③について 概ね達成。	
--	--	--

	3年生の Handy 進路指導室の利用率 UP。 求人一覧表・指定校推薦一覧表等の基礎情報の共有。		
重点③ 生活習慣 の確立	【1 学年】 ①遅刻・欠席数の減少 ②身だしなみを整える。 ③挨拶ができる。 【活標】 ①遅刻・欠席生徒と対話し、家庭とも連携する。 ②服装・頭髪について身だしなみを整えることの意義を伝える。 ③「挨拶は桑北の光」という標語を用いて、挨拶が行き交う雰囲気をつくっていく。 【成標】 ①学年遅刻数の昨年度比減。 ②毎朝の SHR に全クラスで身だしなみチェックをする。 ③教員が挨拶を率先垂範し、生徒アンケートで、「挨拶ができた」の回答：90%以上を目指す。 【2 学年】 ①遅刻・欠席数の減少 ②1 人 1 台端末の活用習慣化 ③身だしなみの徹底 【活標】 ①朝学に計画的に取り組むことで授業を落ち着いて受けられるようにする。遅刻生徒としっかりと対話し、その家庭と連携する。 ②学年の取り組みの中で、「調べる」や「まとめる」、「発表する」といった場面で端末を活用していく。 ③服装・頭髪について身だしなみを整えることの意義を伝える。朝の SHR にて全クラスで身だしなみチェックをする。そして、自分達で気付き、正していくことができる姿勢を身につけてられるよう促していく。 【成標】 ①学年遅刻数の昨年度比減。 ②各頭髪服装指導の該当者を 10 人以下にする。 【3 学年】 ①遅刻・欠席数の減少 ②身だしなみを整える。 【活標】 ①朝学に計画的に取り組む。遅刻生徒としっかりと対話し、連絡がない場合は必ず、本人と保護者に連絡をし、家庭と連携する。 ②服装・頭髪について予防と対応を使い分け、身だしなみを整えることの意義を伝える。 【成標】 ①学年遅刻数の昨年度比減。 ②各頭髪服装指導の該当者、各クラス 3 名以下。	【1 学年】 ①遅刻者数（遅刻率） 1 学期 昨年度 154 件（1.1%） 今年度 159 件（1.3%） 2 学期 昨年度 334 件（2.2%） 今年度 225 件（1.8%） 前年度よりも減少傾向にある。 ②指導拒否実績 1 学期 0 件 2 学期 4 件 朝 SHR にて身だしなみチェック実施 ③今後アンケートを実施予定 【2 学年】 ①遅刻者数（遅刻率） 1 学期 昨年度 370 人（2.3%） 今年度 476 人（3.5%） 2 学期 昨年度 508 人（5.1%） 今年度 457 人（4.4%） 2 学期に入り、3 年生に向けて生活習慣から改めるなど、高い意識を持って過ごすことができた。 ②頭髪指導の再指導者数 1 学期 男子 2 名、女子 5 名 2 学期 男子 4 名、女子 13 名 3 学期 男子 6 名、女子 11 名 目標の数値を達成することはできなかったが、保護者と密に連絡をとることで、今後の見守りや対応を家庭・学校ともに協力しあいながらできる体制を構築できた。 【3 学年】 ①令和 3 年度 1338 件 （遅刻率 3.9%） 令和 4 年度 1507 件 （遅刻率 3.5%） 令和 5 年度 1271 件 （遅刻率 3.2%） 3 年間で減少している。 ②1 学期 4 名、2 学期 7 名、3 学期 10 名と各クラス 3 名以下となり、目標を達成した。今後は全員が TP0 を考え、判断できるようにすることが今後必要になる。	※

	【生徒指導部】 ①全生徒が遅刻せず一日の学校生活を有意義にスタートさせる。 【活標】 遅刻指導の内容を改め、生活リズムを正すきっかけをつくるとともに遅刻数増加のはじめとする。生徒手帳へ遅刻状況を記録させることで自身の現状把握につなげる。 【成標】 全学年の遅刻者率（※）：各学期・年間で3%以下。 ※遅刻者率＝遅刻者数／（在籍者数×授業日数） ②アルバイト等、学校外の活動で生活習慣が乱れないよう、また手続き申請をきちんとできるように指導する。 【活標】 アルバイト許可については経済的な理由等、やむを得ない理由がどうか、また成績不振科目がないかどうか確認して手続きを行う。無断アルバイトがないよう、周知する。 【成標】 無断アルバイト件数5件以下。 【保健部】 良い習慣を身に付けるための指導、啓発を行う。 【活標】 朝食や睡眠など、基本的な生活習慣の確立についての指導・啓発を行う。 【成標】 ・入学オリエンテーションで保護者、生徒に指導：1回ずつ。 ・保健だよりの発行：年間10回以上、必要に応じて随時発行。 ・掲示物の作成：年間2回以上。 ・保健調査や健康診断結果による面談。 ・来室時における個人指導などの実施。	【生徒指導部】 ①遅刻者率は1学期2.8%、2学期3.2%、全体3.0%で2学期は目標を達成できなかった。2学期の遅刻率はこの3年減り続けているので、さらに減らしていけるよう目指す。 ②今年度の無断アルバイトの指導件数は7件で目標を達成することができなかった。 【保健部】 学期毎に注意喚起を呼びかけるなど意識向上に取り組んだ。 【達成】 ・指導・啓発→保護者に1回実施、生徒対象に6回実施 ・保健便り→11回発行 ・保健室前掲示→2回 ・個別面談・保健指導の実施	
重点④ 安全・安心の学校づくり	【1学年】 ①家庭との連携 ②清潔な学習環境 ③早期のいじめ認知、対応 【活標】 ①学年通信の発行。少しでも気になる様子があれば家庭へ連絡をし、情報を共有する。 ②HR 教室・トイレ・廊下の清掃を徹底する。放課後、教室の机上やロッカーに荷物が無いよう指導する。 ③いじめに対する教員のアンテナを高くし、生徒の表情や言動に注意して早期発見・早期対応を行う。 【成標】 ①各クラス年度当初の保護者との情報共有10人以上。 ②毎日の清掃、放課後の教室整備を実施。 ③いじめの重大事案0件 【2学年】 ①いじめを迅速に認知できるようにする。 ②家庭との連携 ③清潔な学習環境 【活標】	【1学年】 ①年度当初、中学校引継ぎ情報や、保護者からの配慮要望をExcelにまとめ、必要に応じて保護者連絡を実施。その後、学校、学年で情報共有も実施。 ②毎日、朝に学年主任が廊下、トイレ清掃を実施。放課後には担任がクラスの教室整備を実施。きれいな環境を習慣化できるよう意識した。 ③いじめの重大事案0件。 【2学年】 ①いじめの重大事態は0件だった。さらに、早期発見・早期対応ができるよう、日頃からの生徒とのコミュニケーションを密に行いアンテナ	◎

①いじめに対する教員のアンテナを高くし、生徒の表情や言動に注意して早期発見・早期対応を行う。そのための情報共有をこまめに行う。 ②学年通信の発行。学校生活の情報を発信するだけでなく、保護者との情報共有を密に行うことで、家庭での様子も把握する。必要に応じて対面での面談も実施していく。 ③HR 教室・トイレの清掃を徹底する。 【成標】 ①いじめの重大事態0件。 ②学年通信の発行 年間10回以上。 ③毎日の清掃。 【3学年】 ①いじめの積極的認知 ②清潔な学習環境 【活標】 ①いじめに対する教員のアンテナを高くし、いじめの芽の段階から早期発見・早期対応を行う。そのための情報共有をこまめに行う。 ②HR 教室・廊下・トイレの清掃を欠かさない。放課後はイスを机の上に載せ、整理整頓された状態を維持する。 【成標】 ①いじめの重大事態0件（いじめを積極的に認知する姿勢を持つ）。 ②毎日の清掃・教室整備・3年フロアの廊下の清掃の徹底。 【教務総務部】 ①自他の人権を守る実践行動を身につけることを目的とした人権教育を実施する。 【活標】 生徒の実態把握、人権課題に合った人権 LHR のテーマ設定をする。全学年で人権 LHR を2回、人権講演会を年1回実施する。 【成標】 年度始め、年度末に生徒アンケートを実施。生徒の人権感覚、実践行動の向上をめざす。 ②教職員の知的理解・人権感覚の向上に努め、人権尊重の観点を重視した授業づくりの推進を行う。 【活標】 教職員研修を年2回以上実施する。人権だよりの発行。授業研究の実施、研究協力者などの助言をもらい授業改善を行う。 【成標】 研修開催後の教職員アンケートによる意識調査を行い、教職員研修の内容の見直しを行う。	を高く過ぐすことができた。小さなことでも認知していき、教員間で情報共有し見守る態勢を即座に形成していった。 ②学年通信は10号まで発行予定。生徒について、気になることや学校で起こったことなど、こまめな情報共有を保護者で行い、学校・家庭両サイドから生徒を見守る態勢を作ることができた。 ③「良い学習は綺麗な学習環境から」という意識を持って日頃からの清掃に取り組むことができた。今年は教室外の環境整備に力を入れ、荷物の片づけ忘れなどは、該当生徒に注意を促すことで片付けられるよう支援できた。 【3学年】 ①3学期の学校生活アンケートにおいては、気になる記述は0であった。今までアンテナを高くし、早期に発見し、事が起きた後も継続して見守ることができた。 ②通年を通して、全クラスにおいて、ロッカーの上をきれいに保つことができた。教室においては、机上の整理整頓や自分の荷物の管理は概ねできていた。 【教務総務部】 ①6月に1, 2年生「障がい者の人権」、3年生「統一応募用紙」についての人権 LHR を実施した。11月には「多文化共生社会」をテーマに人権権講演会を行い、講演会后「外国人の人権」をテーマとした人権 LHR を行った。2回目の人権 LHR 後に実施した生徒アンケート結果から偏見や差別をなくすためには、自分にも関わりがある、自他の人権を守る実践行動ができる項目の回答が年度始めの結果より向上することができた。 ②人権 LHR について2回、人権尊重の観点を重視した授業づくりに関しては2回、外国人の人権について1回の教職員研修を実施した。すべての研修で意識調査をすることはできなかったが実施したものに関しては参考になったという回答が大半だった。
--	--

	【生徒指導部】 ①交通ルール・マナーを遵守し、事故の被害者にも加害者にもならないよう指導する。 【活標】 交通安全セミナーや講話を通して交通マナーの大切さや、事故防止について発信する。 【成標】 登下校時事故件数5件以下。 ②いじめのない生徒関係の構築を行う。 【活標】 いじめ防止講話や学校生活アンケートを実施し、生徒の実態把握に努める。 【成標】 年3回、学校生活アンケートを実施し、活用する。 【保健部】 ①生徒の問題行動に対する予防的な教育を積極的に推進する。 【活標】 1年生：養護教諭と保健体育科の連携による性教育や外部講師を活用したデートDVについて指導する。 2年生：健康診断の事前指導・事後指導による健康管理能力を高める教育を行う。 3年生：専門性の高い外部講師を招き、妊娠・出産についての性教育を行う。 【成標】 各予防教育実施後の生徒アンケート満足度：各85%以上。 ②感染症に対する予防的措置を講じる。 【活標】 手指消毒アルコール液・手洗い石鹸の設置と活用を進める。教室の換気を推進する。 【成標】 HR教室と各教科特別教室へのCO₂モニター設置：80%以上。 ③安全・安心を確保するため、非常時の対応力の強化を図る。 【活標】 1年生と全教職員にAED講習を実施し、適正に取り扱うことができる。 【成標】 年度内に常勤教職員の講習参加：100%	【生徒指導部】 ①各学期の桑北だよりで交通マナーについての文章を発信した。地域からの情報があった場合は各クラスでその都度伝えてもらった。登下校時事故件数は17件で目標は達成できなかった。 ②学校生活アンケートは、学期毎に3回実施した。4月の学年集会時にいじめ防止の講話をした。 4月・11月にピンクシャツ運動を生徒会役員を中心に有志の生徒75名とともに実施し、意識の向上に努めた。 【保健部】 ① 達成 1年：性教育を9月に各クラスにて実施、満足度87%。デートDVの講話を5月に実施、満足度92%。 2年：個別面談を実施した。 3年：性教育の講話を12月に実施、満足度92%。 ② 達成 手指消毒アルコール液・手洗い石鹸の活用、各教室などの換気と呼びかけた。HR教室や特別教室のCO₂（二酸化炭素濃度）モニター設置、83%。 ③1年生の保健の授業内で教職員にも参加を促し、実施した。AED講習未受講者の常勤教職員の講習参加：100%	
--	--	--	--

改善課題

1 遅刻者

遅刻者率は減少傾向にあるが、設定した目標は達成できなかった。家庭とも連携しながら、生徒が規則正しい生活を送ることができるように指導等を継続していく。

2 卒業後の早期離職

昨年度卒業生の1年以内の離職率について、目標を設定できなかった。コロナ禍の影響も考えられるが、引き続き、生徒の進路実現に向けて、3年間を見据えたきめ細やかな指導を継続していく。

3 1人1台学習端末

来年度は、全学年が1人1台の学習端末を活用して、学習活動を進めていくことから、校内運営体制、指導計画等を更に充実させていく。

(2) 学校運営など

項目	取組内容・指標	結果	備考
重点① 円滑で戦略的な組織運営	【学校運営】 教育課題に対応するカリキュラムマネジメントを推進する。 ・「基礎力診断テスト」を中核に据えた学力定着の取組が奏功しており、また、「みらい」・LHR等によるキャリア教育の充実により、生徒の進路意識の向上が図られている。 「コミュニケーション授業」も含めたこれら本校の特色あるフレームを継承・深化させ、学校のさらなる活性化につなげていく。 ・また、各委員会の活動を「目指す学校像」の実現に向けて収斂させることで、本校の教育課題の解決を図る。 【活標】 ・「主任会議」：毎週1回、「企画委員会」：毎月1回開催 ・個別の課題に対しては、「学校信頼向上委員会」「ICT委員会」等を随時開催し、適時適切に対応 【成標】 ・中長期的な本校の教育活動の方向性についての職員間の共有と、喫緊の課題の効果的な解決	【学校運営】 ・「主任会議」は、毎週木曜日3限目に設定。学校行事等を除き定期的に行なわれてきたことから、課題解決に向けて適時即応した学校運営につなげた。 ・「企画委員会」は、ほぼ毎月1回開催し、予定された各活動の円滑な遂行に寄与した。 ・「ICT委員会」と「学校信頼向上委員会」は、必要に応じて開催し、課題解決に即応した。	
重点② 信頼の確保と指導力の向上	【学校運営】 ①学力の定着と授業力向上の重点化を図る。 落ち着いた様子を見せている生徒の状況をふまえて、特に授業力の向上について、重点化して取り組む。 【活標】 ・管理職による授業見学：年1回以上実施 【成標】 ・基礎学力の確実な定着に向けた学習・指導方法の開発及びPDCAサイクルの構築 ②「学校信頼向上委員会」の主導による研修、コンプライアンス・セルフチェック、管理職による面談、人権研修等の実施により、信頼の確保を図る。 【活標】 ・それぞれの研修：年1回実施 ・セルフチェック：年7回実施 ・「信頼される学校であるための行動計画」に基づく取組 【成標】 ・体罰、セクハラ等不祥事の根絶 【教務総務部】 ①教員の授業力向上を図る。 【活標】 教員の授業力向上を目的とした授業公開・授業研究を（年2回、各1週間、一人当たり2回以上の授業見学）を実施する。 【成標】	【学校運営】 ①管理職による授業見学は、授業公開週間等に行ない、授業者に指導・助言した。 ②コンプライアンスにかかる研修は、全体研修1回（わいせつ、交通法規）、各学年・各単位での研修（個人情報漏えい）1回、各個人の動画視聴による研修（ハラスメント）1回。これとは別に、「信頼される学校であるための行動計画」にて設定した職員の意識向上を図る取組として、Googleフォームにて作成した「コンプライアンス・セルフチェック」を、非常勤講師も含む教員に配信、年間計7回実施した。 また、人権にかかる全体研修は、全体研修を3回（人権の視点からの授業改善、外国人の人権）実施した。 個人面談の機会を活用して、管理職からの声かけも実施した。 【教務総務部】 ① 授業力向上委員会と共同で、年2回外部公開と並行し教員どうしの相互授業研究を行った。 →授業見学回数2回以上の教員の割合 86.4% 在籍生徒保護者、近隣中学校の先	◎

	・一人当たり2回以上の授業見学の実施：80%以上。 ②授業支援ソフト「Win Bird」を導入する。 【活標】 教員のICT活用力向上を目的とした研修会を実施する。 【成標】 授業支援ソフト「Win Bird」を活用するための教員研修を1回以上実施する。	生方、中3生保護者にも来校していただいた。 ② 授業支援ソフト「WinBird」を導入した。ICT 委員会で数回にわたり活用方法を研究し、全教員へ研修を行った。「WinBird」を導入することにより、生徒の課題の進捗状況の確認や複数の生徒の考え方等の比較を行うことができた。	
重点③ 開かれた学校づくりの推進	【学校運営】 ①家庭・地域連携の強化と教育活動の地域発信を図る。 【活標】 学校実態調査アンケート：年1回実施 【成標】 本校の諸取組への肯定的評価 【活標】 HP、きずなネット、Google Classroom、報道機関等を活用した効果的な情報発信 【成標】 必要な情報発信：100% 【活標】 遠足・体育祭・文化祭の実施前の回覧板への情報発信：年3回 【成標】 発信率：100% ②学校関係者評価委員会、PTA 役員会、生徒会等の改善提案を生かした学校づくりを行う。 【活標】 ・前年度の学校関係者評価委員等から提出された改善提案に関連する改善事例：2件以上 【成標】 ・改善提案を次年度の教育活動に効果的に反映 ③学校運営費の適正かつ効率的な運用に努める。 【活標】 各分掌・教科の要求に基づき、学校運営費を適正に配分し、効率的な運用に努める。 【成標】 教職員アンケート：満足度 90%以上 ④快適かつ安全・安心な教育環境の充実に取り組む。 【活標】 学校施設・設備整備・点検を常に行い、県教育委員会に修繕すべき箇所の予算を要求して、教育環境の充実に努める。 【成標】 教職員アンケート：満足度 90%以上	【学校運営】 ①7月に実施した「実態調査アンケート」については、集計・分析結果をPTA 発行の「桑北だより」で発信した。学校HPは、長期休業中を除きほぼ毎週の頻度で、体育祭や文化祭などの学校行事等様々な活動を発信できた。また、発信内容によりきずなネットや Google Classroom 等を選択しながら、適時必要な情報を発信した。 ②生徒会活動により出された改善提案（「北高カイゼンミーティング」の取組）について、各部各学年での検討をふまえ、次年度の活動につなげていく。 ③学校運営費の適正かつ効率的な運用 ・各分掌・教科の要求に基づいての運用を行った。特に教員のパソコン更新に伴うソフトウェア等の購入は年度当初に不明だったが、必要と判断し、購入した。 ④快適かつ安全・安心な教育環境の充実 ・年度当初に侵入者により施設が破壊されたので、予算要求を行った。 ・昇降口東側の屋上防水の予算が付いたので、修繕を行った。 ・今年度も照明器具のLED 化工事の予算が付いたため、引き続き工事を行った。通学路（坂道及び階段）の外灯も水銀灯からLED 灯とした。	
重点④ 働き方改革の実効性の向上	【学校運営】 総勤務時間の縮減を進めるため、時間外労働時間の上限を遵守するとともに、計画的かつ組織的な学校運営に取り組むことにより、学校の働き方改革を推進する。 【活標】 ①定時退校日の定時に退校できた教職員の割合：80%以上 ②計画した日に休養日を設定できた部活動の割合：100% ③放課後に開催し60分以内に終了した会議の割合：90%以上 ④スクール・サポート・スタッフ、支援員の有効的な活用。	【学校運営】 ～数値は全て1月末現在～ 〈総勤務時間の縮減〉 ①定時退校日の定時に退校できた教職員の割合：64.6% ②計画した日に休養日を設定できた部活動の割合：100% ③放課後に開催し60分以内に終了した会議の割合：78.8% ④スクール・サポート・スタッフ（SSS）と支援員の配置により、教員業務の負担軽減につながった。	※

	【成標】 〈時間外労働時間〉 ①年 360 時間を超える教職員数：0 人 ②月 45 時間を超える教職員の延べ人数：0 人 ③一人あたりの月平均時間外在校等時間：15 時間以下 〈休暇取得〉 一人あたりの年間休暇取得日数：前年度比 1 日増加	〈時間外労働時間〉 ①年 360 時間を超える教職員数：10 人 ②月 45 時間を超える教職員の延べ人数：52 人 ③一人あたりの月平均時間外在校等時間：24.7 時間 〈休暇取得〉 一人あたりの年間休暇取得日数 R4 15.3 → R5 17.0	
改善課題			
1 時間外労働時間 時間外労働時間の縮減については、休暇取得の目標は達成できたが、設定した成果指標を 3 つとも全て達成することができなかった。業務分担の在り方や業務量を見直す等、引き続き働き方改革の取組をすすめていく。			
2 生徒募集 来年度 1 学級減にもかかわらず、入学者選抜において 2 年連続定員割れをしてしまった。少子化の状況の中、中学生や保護者、学習塾等に対して、様々な方法を凝らして、本校の広報活動を充実させていく。			

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	1 桑北スタンダード「7つの力」の活用 「桑北スタンダード」がすべての教育活動の原点と考えられる。「桑北スタンダード」に掲げられている「7つの力」をいかに3年間かけて育成していくことが課題の一つであるので、教職員の異動に関わらず、継続して取組をすすめていってほしい。 2 生徒指導 厳しく指導をされた経験がない若者が少なくないが、素直に自分の気持ちを伝えることができる若者が多い印象がある。多様な背景を持った生徒が多い中、生徒が表す素直な気持ちにも寄り添って、対応や指導方法を適切に変えていくことが求められているのではないかな。 3 ICTの活用 生徒が卒業して就職することになれば、ICTの活用が求められている。生徒の学びの質の向上や教職員の効果的、効率的な業務遂行等のため、引き続き研鑽をすすめていかれたい。 4 地域との連携 今年度の夏に、地域住民と本校の生徒が交流する機会があった。今までは、一部の生徒の良くない面ばかりが気になっていたが、交流の結果、地域に活力を与え、地域住民の本校生徒に対する印象が良くなった。今後も部活動の生徒等を中心に、地域住民との交流をすすめる機会を増やしていかれたい。
----------------------------	---

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	1 県教育委員会事業の成果の活用 今年度1年間かけて、「生徒の人権が尊重される授業づくり」や「いじめ問題に対する学校の対応や取組」について、大学教授や弁護士、臨床心理士を招いた県教育委員会の事業を活用して研鑽をすすめてきた。次年度も継続してこれらの事業で得られた成果を教育活動に活かせるよう、組織をあげて取り組んでいく必要がある。 2 外部人材や機関との連携 多様な環境のもとで育ち、様々な支援が必要な生徒の入学が増えてきたことから、引き続き、校内で情報共有や研修をすすめて、教職員の力量を高め、生徒を支援していくとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、高校生活スペシャルマネージャー、外国人生徒支援専門員、児童相談所等外部人材や機関との連携を深めていく必要がある。
学校運営についての改善策	1 学級減に伴う教育活動の見直し 来年度入学生1学級減に伴い、今後3年間かけて1学級ずつ減少していくことが予想され、全体で12学級規模の学校になり、教職員定数も減少していく可能性が高い。このことを見据えて、業務の分担の在り方、部活動数の精選、保護者から集金する私費の使い方等、教育活動の在り方について、教育効果を下げずに見直しをすすめていく必要がある。 2 地域との交流 今年度、地域との交流を進めたおかげで、一定の成果が得られた。本校は桑名市の避難場所に指定されていることから、防災等の視点で地域住民との交流を深め、地域から更に信頼される学校となっていくように取組をすすめていく必要がある。